

キャンドルのつどい、展開例

プレイホールで行う場合

	展開	内容	備考
第1部	集合	全員、1階ホールまたは2階ホールに集合する。各班ごとに整列する。 火の長（おさ）、司会者、放送係は所定の位置につく。「火のつかい」は放送室で待機する。	<ul style="list-style-type: none"> 天井のライト No①のスイッチのみつけておく。
	1. 全員入場 （司会者）	司会者の合図で、静かに入場する。左回りに入場し、燭台を囲んで円形に並ぶ。 100人のとき二重円、200人のとき三重円、300人のとき四重円、400人のとき五重円にすると良い。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 「太陽がほのぼのと光を注ぎ、風が舞い、鳥が踊る、ここ夜須高原の自然にも静かな夜が訪れて参りました。ただいまから、_____団体、_____名によるキャンドルのつどいを行います。それではみなで夜の歌を歌いながら、灯（ともしび）を迎えることにいたしましょう。」 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 入場し、並び終わったら、司会者の合図で天井のライトを消す。 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> </div>
	2. うた 火のつかい入場 （女神） （司会者）	全員斉唱「遠き山に日は落ちて」 ※伴奏：エレクトーン、アコーディオン、カセットテープ 歌い始めたら、火のつかいはトーチを掲げながら入場する。円陣の内側を左回りして、火の長の前で向かい合う状態で止まる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 「ただいま、火のつかいにより灯（ともしび）を持ってきていただきました。それでは、火のつかいは火の長に灯を渡してください。」 </div> <ul style="list-style-type: none"> 火のつかいはトーチを火の長に渡す。渡した後、火のつかいは火の長の横に並ぶ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 「火の長のことばをお願いします。」 </div>	<div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> </div>
	3. 火の長のことば （火の長） （司会者）	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 「今ここに、皆さんの友情と団結を図るために、聖火を迎えました。この火は若人のシンボルであります。そして、情熱をあらわす火でもあります。人類は火とともに歴史をつくってきました。火は人々に安らぎを与え、希望を抱かせ、勇気を奮立たせてきました。火が人類にとって最も神聖なものとして崇拝されてきたのはこのためです。 この火を囲んで、このキャンドルのつどいが研修活動のまとめにふさわしく、厳粛な中でも自分を見つめる機会となり、さらに友情を温め、そしてたゆむことなく前進する決意をかため、心の奥深く、いつまでも美しく、しかも楽しい思い出となるよう祈りたいと思います。」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 「火の守は中央燭台からキャンドルを1本ずつ持って火の長の前に集まってください。それでは、火の長より灯を分火していただきます。 分火！」 </div>	<div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> 火の長が火のついたキャンドルを差し出し、その上から火の守が自分のキャンドルを逆さにして、火をつける。

第1部	4. 分火 (司会者)	「火の守は中央燭台を囲んでください。 それでは、明日へ向かっての誓いのことばを述べていただきます。誓いのことば！」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 火の長は火のつかいにキャンドルの元火を渡す。 ・ 火の守は中央燭台を囲む。 ・ 手に持ったキャンドルを高くかざして誓いの言葉を述べる。 ・ この一例は、中・高生向きです。小学生の場合は、「私たちは、友達と仲良くすることを誓います。」など、簡単に表現しても良い。 ・ 火の守は自分の持っているキャンドルを燭台に置いて、まだともしていないキャンドルをとって火をつける。 ・ 最後に火のつかいが燭台に進み出て、元火を一番上に置く。 ・ 火のつかいと火の守は、燭台から一歩離れてその一で歌を歌う。
	5. 誓いのことば (火の守)	誓いのことばの一例 <ul style="list-style-type: none"> ○ 私たち（僕たち）は、常に世の中を明るくしていくよう、心掛けることを誓います。 ○ 私たち（僕たち）は、誠実に力強く理想に向かって、前進していくことを誓います。 ○ 私たち（僕たち）は、いつも最善を尽くし、努力していくことを誓います。 ○ 私たち（僕たち）は、お互いに協力して友達を大切にしていくことを誓います。 ○ 私たち（僕たち）は、心と体を磨いて社会の為に尽くしていくことを誓います。 	
	6. 点火 (司会者)	「それぞれの思いを込めて、力強く誓いを述べていただきました。 それでは、これから点火をしていただきます。 点火！」	
	(司会者)	「みなさんご覧ください。1本の元火から、2本、4本、8本・・・とたくさんのキャンドルに火がともりました。そして、より明るく、より暖かく私達を照らしてくれます。さあ、それでは、ほのぼのとした灯を見つめながら、みんなで元気よく歌を歌いましょう。」	
	7. うた	全員斉唱「若者たち」 ※伴奏：エレクトーン、アコーディオン、カセットテープ	
8. 第2部への導入 (司会者)	「火のつかい、そして火の守のみなさん、ご苦労様でした。おかえりください。 「さあ、これから第2部、交歓のつどいです。司会者を紹介します。〇〇さん、どうぞ！」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天井のライトをつける。 	

第2部	1. うた・ゲーム	雰囲気づくりの歌やゲームを取り入れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・出し物交歓をするときは、ステージを使っても良い。
	2. 出し物	各班（各クラス）の出し物 <ul style="list-style-type: none"> ・出し物の班は、全体で8班以内ぐらいにまとめた方が時間的にもよい。 ・一班の所要時間は、5分以内と決めておくのがよい。 ・出し物は、寸劇など、知恵を出し合い工夫したものがよく、例えば研修活動の出来事、学校での出来事、昔話の現代版とか、新聞の話題とか、小説、物語などをヒントにして、自分たちに合った劇にアレンジするなどすればそんなに難しいものではないことをアドバイスしてあげると良い。また、歌を歌いながら自分たちで創作した踊りをするなどでも良い。 ・歌を歌うだけとか、クイズ、なぞなぞ等は意外とつまらない。自分たちで苦労して創意工夫した出し物をみんなに見てもらおうということが大切である。 	
	3. ゲーム・ダンス	みんなで楽しいゲームやダンスをして第2部をまとめると効果的である。	
第3部	(司会者)	司会者は、第1部の時の隊形と同じく、全員円形に整列するよう指示する。 火の長と火のつかいも第1部の時の位置につく。 「楽しく歌ったり、踊ったり、出し物の交歓をしているうちに、夜もだいぶふけて参りました。これから、火を送る儀式に入ります。さあ、それではみんなで「一日の終わり」を歌いましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> ・天井のライトを消す。 ・備え付けの竹のひしゃくで下の方から消していく。 ・消したら、火のつかいは自分の班に戻る。 ・詩の朗読は省略しても良い。
	1. うた	全員斉唱「一日の終わり」又は「ふるさと」※伴奏：エレクトーン、アコーディオン、カセットテープ	
	2. 消火 (司会者)	全員で歌っている時に、火のつかい（女神）は中央燭台のキャンドルの火を一本ずつ消していく。ただし、火のつかいが第1部の時に持ってきた一番上の元火だけは消さないで残しておく。 「詩の朗読をしてもらいます。詩を朗読する人は中央燭台の所に出て来てください。」	
	3. 詩の朗読 (司会者)	詩の朗読係（1名）は、中央燭台のそばで詩の朗読をする。 「火の長より終わりのことばをお願いします。」	

第3部	4. 火の長のことば (火の長)	<p>「この研修を通して皆さんはたくさんの友達を得たことでしょう。一つ屋根の下でお互い心と心を結び、楽しく語り合い、研修しあった仲間、そして素晴らしい友を得た感激・・・この出会いを大切に、ともに励まし合い、明日からの新しいスタートを力強く踏み出して下さい。</p> <p>『友情は喜びを二倍にし、悲しみを半分にする』とされています。一本のキャンドルの光は小さいけれど、暗闇をこんなにも明るく照らします。この光が消えても、心の中にいつまでも友情の火をいつまでも燃やし続けてください。そして嬉しい時、悲しい時、寂しい時、このキャンドルの火と素晴らしい仲間を思い出しながら、力強く生きていくことを願って終わりの言葉といたします。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 退場するとき、天井のライトを一つつける。 ・ 後始末をする。
	(司会者)	<p>「最後に、みんな『今日の日さよなら』を歌って終わることにいたしましょう。」</p>	
	5. うた	<p>全員斉唱「今日の日さよなら」 ※伴奏：エレクトーン、アコーディオン、カセットテープ</p> <p>今宵（こよい）は、お互いに協力しあって、素晴らしいつどいを開くことができました。これでキャンドルのつどいを終わることにいたします。</p>	
6. 全員退場	<p>1班から順次、静かに退場する。</p> <p>または、司会者の指示でその場で引き続き連絡会などにあててもよい。</p>		